

国際アーカイブズの日

最近、「アーカイブズ」(archives)という言葉を目にする機会が増えてきました。右のポスターは、国立公文書館が編集発行する『アーカイブズ』33号に掲載されたもので、「国際アーカイブズの日」(International Archives Day)の誕生を広報しています。国際アーカイブズの日は、1948年6月9日にユネスコの支援をうけて設立された国際文書館評議会(International Council on Archives: ICA)が設立60周年を記念して制定したものです。これをうけて日本では当日、「国際アーカイブズの日」記念日本大会が開催され、全国の公文書館等の館長、アーカイブズ関係機関協議会のメンバーが参加し、その際に日本大会アピールも採択されました。

同アピールにおいて、アーカイブズは、(1)人類共通の遺産として後世に伝えるべきものであり、(2)過去を直視し将来を見通すものであり、(3)次世代の国民への説明責任を果たすためのもので民主主義の基盤であり、(4)国や地方自治体だけでなく広く民間の記録を含むものであるとされ、(5)アーカイブズを保存して広く一般の利用に役立てることがアーカイブズ関係機関の任務である、と述べられています。

時おなじく2008年4月、愛知医科大学には大学文書室(アーカイブズ組織)が設置されました。現在、大学文書室では、(1)本学の歴史にかかるアーカイブズ(記録史料)の収集・整理および保存、(2)アーカイブズの活用、(3)アーカイブズの調査・研究等の業務を通じて、いわゆる大学史の観点からだけでなく、現在および未来の利用者に対して本学アーカイブズを利用可能な状態で提供できるように活動を行っています。

